

小中一貫教育だより

加東市教育委員会 小中一貫教育推進室

E-mail shochu-ikkan@city.kato.lg.jp

令和3年6月7日発行

東条学園小中学校での取組から ～小学校と中学校の相互乗り入れ授業～

令和3年4月1日に東条地域小中一貫校『東条学園小中学校』（愛称『東条学園』）が開校し、はや2か月が経ちました。新校舎が完成するまでは、前期課程校舎（1年生～6年生）と後期課程校舎（7年生～9年生）に分かれて教育活動を行いますが、小中一貫校として様々な取組がスタートしています。そのうちの一つ、「相互乗り入れ授業」をご紹介します。

相互乗り入れ授業とは

学習内容の系統性や指導の専門性が求められる教科で相互乗り入れ授業を行うことにより、中学校（後期課程）への接続を見据えた指導体制の充実を図ります。

東条学園小中学校では、主に5～9年生で相互乗り入れ授業を行っています。5・6年生に対しては、後期課程の英語、社会科、保健体育科の教師が授業を受け持っています。7～9年生に対しては、専門教科の免許をもつ前期課程教師が技術・家庭科の授業を受け持っています。

この日は、後期課程（中学校）の英語教師が、6年生の英語の授業へ乗り入れました。英語は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4つの領域を学習し、コミュニケーションを図る基礎となる教科です。早い段階から発音や文化に触れることで、教育効果が期待できる教科でもあります。授業は、英語教師とALT（英語指導助手）とのティーム・ティーチングを核にして進みました。「得意なこと」や「出身地」について身近な文例を提示し、繰り返し発音させることでコミュニケーション能力を高める授業が行われました。

また、社会科でも6年生への乗り入れ授業が行われ、日本国憲法の三つの柱の1つである「平和主義」の大切さについて、子どもたちは深く考えました。前期課程の子どもたちのつぶやきを、後期課程での学習へ上手につなげる教師の言葉がけがあり、子どもたちが学習の見通しを持つことができました。

社地域・滝野地域での取組

社地域・滝野地域においては、小中一貫校開校に向けて平成27年度から行っている「出前授業」を、引き続き行っていきます。

「出前授業」では、小学校の先生が中学校へ、中学校の先生が小学校へ出向き、授業を行います。

開校に向けてこの取組を継続させることで、小中学校間の接続をスムーズにしていきます。開校後は、東条学園小中学校の取組のように、教師の専門性を活かした学習指導を充実し、さらなる学力の向上を図ります。

また、小中学校間の教師が共に教材研究や授業を行い、子どもの実態を把握することで、生徒指導の充実も図ります。

加東市では、今年度より小中一貫教育をスタートしました。子どもの9年間の学びと成長を見据えた教育の方向性を、グランドデザインとして作成し、【裏面】に掲載しました。これを基に、社、滝野、東条、それぞれの地域の特色に応じた小中一貫教育を進めていきます。

相互乗り入れ授業 英語



相互乗り入れ授業 社会



「出前授業」を受けた 子どもたちの声

- ・中学校の学習内容とのつながりが理解できた。
- ・中学校での勉強が楽しくなった。

「出前授業」を行った 先生の声

- ・9年間を見通して、つながりのある教育を意識できた。
- ・指導力の向上につながった。

加東市のめざす小中一貫教育

加東市教育委員会のホームページに掲載中です。ぜひ、ご覧ください。

加東市小中一貫教育グランドデザイン

小中一貫教育基本方針
ふるさとを愛し、
自らの夢に挑む
自立した子どもの育成

小中一貫教育をとおして子どもの力を育む
かとうの教育

加東市では、すべての中学校区において小中一貫教育を行います。中学校区ごとに、9年間を貫いた教育目標を定め、小学校と中学校が、つながりを意識した切れ目のない教育活動を行い、子どもたちの発達段階に応じた新たな学びのあり方をスタートします。

第3期
加東市教育振興基本計画

基本理念 人間力の育成
～豊かな学びが 新しい自分と地域を育むまち 加東～

基本方針1 未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進
～学びの連続性を大切にした教育の充実～

めざす子ども像

自ら学ぶ子 自他を大切に
する子 なべり強い子
個性豊かな子
自分を
活かす子 たくましい子

9年間を通した
教育目標

社地域 向上心
～共に学び、夢に挑む
自立した子どもの育成～

滝野地域 ともに学び、たくましく、
夢に挑む子どもの育成

東条地域 自ら学び、こころ豊かに
たくましく生き抜く学園生の育成

義務教育9年間で3つのステージへ

第1ステージ 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生 7年生 8年生 9年生

小学校(義務教育学校前期) 課程6年 中学校(義務教育学校後期) 課程3年

学級担任制 一部教科担任制 教科担任制

基礎・基本の定着・反復
生活・学習習慣の定着 1～4年

基礎基本の徹底
思春期の課題に対応 5～7年

発達段階に応じて、
ステージごとに
目指す姿を明確に 8～9年

3つの「つながる」 3つの「つながる」をキーワードに

コミュニティ・スクール
「学校運営協議会」を置き、社会総がかりで子どもたちを育てる仕組みづくりをします。

ふるさと学習「かとう学」
地域人材や教育資源を活用し、すべての教科を通して郷土への愛着を深め、よりよい社会づくりに向けて、主体的に行動する態度を育成します。

異学年交流
人と関わる機会を増やし、自己有用感や責任感、思いやりの心の醸成を図ります。

9年間を通したカリキュラム
指導方針や各発達段階で育てたい力を共有し、9年間の系統性・連続性のある取組により、確かな学力の定着、向上をめざします。また、英語教育やICT教育の充実などを図ります。

学習指導の充実
小学校での教科担任制の充実、協同学習や少人数学習など効果的な学習形態の活用を図ります。

切れ目のない一貫した支援
9年間を通して子どもを見守り育てる生徒指導体制により、関連行動の未然防止と早期対応を図ります。また、特別な支援を必要とする児童生徒について、全教職員が共通理解します。

地域とつながる 学びが
つながる
ひととつながる

9年間を通した小中一貫教育の目標です。

地域ごとに、小学校と中学校で、9年間を通した学校教育目標を定め、子どもの育つ姿を共有します。

小学校の先生と中学校の先生が、つながりを意識し、発達段階に応じた教育を行います。

重点的な取組の紹介です。

東条学園小中学校新校舎の工事進捗状況

東条学園小中学校新校舎の建設工事は、現在右の写真の通り順調に進んでいます。工事は3階の柱、梁、4階の天井のコンクリート工事へと進んでいます。同時に、1階では、エアコンの取付、配管等を進行中です。

完成は、11月末を予定しています。3学期からは、新しい校舎で1年生から9年生の学園生が共に学びます。地域のシンボルとなるような校舎の完成を保護者・地域の皆さんと共に心待ちにしたいと思います。

